

第4回 TDA通常総会 特別講演会の感想



講師の和田哲(株)社長のお話で、テーマ「あきない世咄」を聴講し、なるほどノ と感じ、反面、これから大変だノ(自分自身の事ですが)と、考え込んでしまった自分を見ました。

と、言うのは、船場の出来るまでに始まり、商売における打ち込み法などを聞き、商いととは“当り前のことをずっと続けること”で、大抵、このずっと続けることで飽きを感じてしまうが、これを飽きないようにすることが商いであると。………ボソボソと言われ………そのボソボソが妙に残る。

私の中の船場は、谷崎潤一郎の「細雪」位で、アバレルデザインの仕事をしているので船場からは抜けられないのですが、………また、余談になりますが、

去年5月に[心齋橋筋の文化史展]が、そごう百貨店・大丸百貨店で開催されたのを思い出し、改めて本を開き心齋橋筋は、“道頓堀の戒橋を起点に北へ進み、土佐堀通り(淀屋橋一丁上)に突き当たるまでの約2.5kmの道の名前”とあり、船場は、その中の長堀以北に当たるとのことで再認識をしました。

大阪は商人の町と言われるが如く、丁稚～暖簾分けまでの年月をいかに飽きないで//

また、桃・栗も3年、柿も8年と育つのかかりますように、私も、バブル崩壊後の低迷社会の中でどの様にして生き抜くかを、お話を聞きながら、“飽きない者同志が集まればテキスタイルに関係する業界・他の業界の繁栄に繋がる”と感じつつ。………

(レポート 宮武 京子)

懇親会パーティー

年に1度、協会としての固苦しい総会が無事終了し、ホットするのも束の間、これぞナニワのど根性、船場の老舗・和田 哲社長の特別講演があり、もう少し聞きたい、話したい思いを残して、スケジュール通り寺井理事がコーディネーターをつとめるパネルディスカッションへと多彩な企画が続き、老若男女、新たな感動をひきつったまま、交流パーティーへと流れが変わりました。



T.D.Aのマドンナ 橋理事のさわやかな司会のもと、上野理事長あいさつ。梅田常務理事の中じめと昼間の疲れも何のその大いに盛り上がりました。印象的だったのは、日頃、辛口でならず野末理事が美しい娘(大阪芸大 夙川学院生)に囲まれたうれしそうな顔でした。何はともあれ、いつもの調子で2次会、3次会とがんばり、帰宅したのは午前様でした。皆様大変ご苦労さまでした。

(レポート 近沢 晴雄)